

第6期坂井市行政改革推進協議会

第8回 議事録

平成30年3月19日

会議	第8回 坂井市行政改革推進協議会		記録	承認
日時	平成30年3月19日(月) 14:00-15:30		事務局 西出	行政経営課 杉田課長
場所	坂井市役所 301会議室			
出席委員	井上会長、池上委員、北島委員、栗原委員、関委員、中川委員、橋本委員、細川委員、松井委員、松江委員、盛政委員			
欠席委員	なし			
事務局	副市長、総務部長、総務部次長兼総務課長、財務部長、財務部次長兼財政課長、行政経営課長、同課長補佐、西出主任、木下主任			
資料	資料1 平成30年度当初予算の概要について 資料2 第三次行革実施計画の取組状況について 補助金の合理化			
I 開会	開会	(行政経営課長)	皆様こんにちは。それではご案内いたしました時間が参りましたので、只今より本年度第2回目の行政改革推進協議会を開催させていただきます。 それでは会議に先立ちまして、北川副市長よりごあいさつ申し上げます。	
		(副市長)	皆様こんにちは。本日は平成29年度の第2回目の坂井市行政改革推進協議会に、大変お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。今年は2月に37年ぶりという大雪に見舞われまして、除雪等々において皆様にはご迷惑をおかけしましたことに対しまして、心からお詫び申し上げたいと思います。 さて、坂井市におきましても、明日でちょうど12年目ということでございます。皆様のいろいろなご協力のおかげで、市政も順調に推移しており、行革におきましても平成29年度から第三次行革を進めているところでございます。行政改革は職員の意識改革が非常に重要と思っております。現在に至っているところでございます。皆様にも行革大綱をつくっていただき、現在進行しているところでもございます。いろいろ課題もございますが、職員一丸となって今後も行政改革を進めるよう考えておりますので、今後とも特段のご協力のほどよろしくお願いしたいと思います。 本日は、平成30年度当初予算の概要、また第三次行革の進捗状況について、これから報告させていただきますので、委員皆様のいろいろなご意見をいただき、実りある会議にしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。	
		(行政経営課長)	ありがとうございました。 早速ですが、会議の方に入らせていただきたいと思います。ここからは井上会長の進行によってお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。	
II 会議	会長あいさつ	(井上会長)	皆様こんにちは。本日は今年度第2回の行政改革推進協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。今ほど副市長さんからもごあいさつありましたように、今年は大雪に見舞われて、特に坂井市やあわら市周辺は非常に深刻な状況になってしまったのかなと思っておりますが、もう早くも雪がなくなり春の季節になってきたなというところでございます。 先ほどの話の中にもありますが、今年度は行政改革の初年度ということでスタートしたばかりですが、取り組み状況の一部をご報告いただくとともに、新年度の予算も行革の重要な一部ということになりますので、それについてのご説明をいただき、皆様からのご意見を頂戴したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは会議の1ということで、平成30年度当初予算の概要について事務局より説明をお願いいたします。	

II 会議	1. 平成30年度当初予算の概要について	(財務次長)	【資料1】平成30年度当初予算の概要について説明
		(井上会長)	ありがとうございました。それではただ今のご説明について、ご質問やご意見がございましたらお伺いしたいと思います。 どの箇所でも結構です。気になる点がございましたら、ご質問等をお受けしたいと思います。
		(委員)	30年度当初予算は骨格予算ということで、新しい政策に関わる予算というものは計上していないというようなご説明だったかと思いますが、4ページの黒星印の新規事業は、新しい政策には該当しないものなのか、新しい事業だけれども、6月議会まで待てずにせざるを得ないというような事業なのか、その辺の考え方はどうですか。
		(財務次長)	強い農業づくり事業や産地パワーアップ事業については、事業主体をJAが行うということ、市の政策とは若干違うものという中で、あわら市と共同で行う事業もあり、当初予算の中で計上しています。
		(委員)	6月議会までに執行しなければならないとは限らないのか。坂井市だけが予算を積まないという判断をすべきようなものではなく、他の市町村にも関係するので、当初から積まないといけないというふうに理解すればよいのか。
		(財務次長)	そういったこともあります。国の補助金もいただく事業ともなっているので、予算に計上し、国に申請するという裏付け部分があります。
		(委員)	防災行政無線事業のJアラートについて、ほとんどの集落内では聞こえない状況で、失敗だったのではないかなと思っています。昔、各家庭にあった無線案内の方が聞こえたような気がします。聞こえる所では何を言っているか全くわからない、聞こえない所では雑音にしか聞こえないと言われていました。どこの集落で意見を聞いてもそうであるため、見直しや本当に聞こえているかどうかということも含めた予算の反映となっているのか、そのまま整備していくつもりなのかどうですか。
		(総務部長)	整備自体は終了しました。坂井町のことで言えば、以前は個別受信機だったので、家の中に受信機がついており、家の中で聞けたという部分がありました。それがなくなり、外に大きなスピーカーを建ててという状況になったので、聞こえない、聞こえにくい、言葉がわかりにくいという声を聞いています。個別無線機をやめた理由は、電波自体が使えないという中で、坂井市全体が今後どうしていくのか、どう計画を立てていくのかを模索した結果、防災無線の設備という形をとってきた訳です。基本的には外にいる方に発信しようということが中心なので、なかなか最近では密閉性の高い家の中には聞こえないという状況はあるかと思っています。また、情報伝達の一つ的手段として、防災・行政メールやスマートフォンから直接情報を出すようなことも、国の方でもさせていただいているところもございます。いろいろなツールを使って、災害時の情報を発信させていただくというような中の一つであるというふうに思っていたら、ありがたいと思っています。国の方も北朝鮮の問題等で、いろいろ聞こえないとの声が全国的にもクローズアップされてきている現実もあります。いろいろなことを考えながら、新たな政策が出てくることは十分にあると思っていますが、時期をみて必要があれば考えていきたいと思っていますので、ご理解いただきたいと思っています。
		(委員)	一つのアイデアとして、昔は太鼓や半鐘の打ち方で集落内・地域内の連絡事項がある程度把握ができました。音で何の知らせかがわかるような工夫をしてもらいたい。
		(総務部長)	Jアラートにおいては音の鳴らし方は決まっていますが、周知されていないことが現実であり、それらを周知していかなければならないと思っています。ミサイル、地震、津波に伴ったものとしてはわかれています。それら以外で個別で市が鳴らすことは、Jアラートと混同する可能性があるので、注意しながらまた研究させていただきます。

II 会議	1. 平成30年度当初予算の概要について	(委員)	音が鳴った後、その後どうしたらいいのかということが、自主防災組織が設置されている所は何となくわかりますが、Jアラートの場合のお示しがいただけるとありがたいですがいかがでしょうか。
		(総務部長)	ミサイル、地震、台風など災害によって対応の仕方が変わってきます。国や県からも様々な媒体を使って情報発信をさせていただいていますが、工夫させてもらいながら精一杯伝えさせていただきます。
		(委員)	ひとり親家庭児童学習支援事業について、今まではなかった事業ですか。
		(財務次長)	今までは県が主体となって取り組んでいました。県からの移行で市が主体となってやるようになったというものです。
		(委員)	市として県の予算をもらって実施していた場所があったのですか。
		(財務次長)	はい、ありました。引き続き県の補助金をもらって、市が主体となってやるという事業です。
		(委員)	坂井市内のどこの地域ですか。
		(財務次長)	春江中コミセンと東十郷コミセンです。
		(委員)	地域で手を挙げたところに助成されていたということですか。
		(財務次長)	学習塾のようなもので、そこに児童が来て勉強するような形です。
		(委員)	母子寡婦の何とかに委託して、運営していると聞いたことがありますか。
		(財務次長)	委託先は母子寡婦福祉連合会です。県もそちらに委託しており、市も同じような形で委託するものです。
		(委員)	これからは子育て支援課の方で事業をしていくのですか。
		(財務次長)	そうです。
		(井上会長)	他にいかがでしょうか。
		(委員)	コミュニティセンター施設整備事業について、トータル何年計画で、総事業費はどれくらい見込んでいますか。
		(財務部長)	事業計画としては5年です。31年度ですべてのコミセンの改修や改築を終える予定です。事業費については、特別全体としてもっているものはないですが、30年度、31年度に委託をかけて設計額等が決まってくるということです。
		(委員)	全体でコミセンは23ありますがどうですか。
		(財務部長)	どの規模でどこまでやるかというところで、今から設計をしてやる場所もあります。概ね想定としてはもっていますが、事業費としてみるのでそれを調整するとかではないです。

II 会議	1. 平成30年度当初予算の概要について	(委員)	だいたいいくらぐらいかかるのですか。つかみの数字はないのか。
		(財務部長)	今年で約17～18億円です。
		(副市長)	地元要望等を加えると多少動きますが、その中で必要なものを整備していきます。トータルで約37億円ぐらいになるのではないのかと思います。
		(委員)	クルーズ船誘致事業について、金額はわずかですが、市のホームページを見られた方が、いよいよ三国にもクルーズ船がということ言っていました。今までクルーズ船については敦賀ばかりでありましたが、坂井市としても観光の目玉として力を入れてやっていただきたいと思います。
		(副市長)	港も様々あり、敦賀港は大きな船も入ってこれる港です。福井港もある程度限られており、定期的には入ってはいません。これからは定期的に入ってもらえるように、船会社との営業活動をやろういうもので、今年は予算的には少ないですが、将来的な経済効果を期待して、積極的に市としても取り組もうと考えています。
		(委員)	客船の飛鳥や日本丸が来たときに、市として食事場所や駐車場等に対応できるように、予算にも力を入れていくとよいと思います。
		(副市長)	いろいろ課題もありますので、今後、多角的に検討し受け入れをしたいという考えで、今回予算を計上しています。
		(井上会長)	他にいかがでしょうか。
		(委員)	3ページの歳出の中の人件費について、合併することにより人件費が削減されるという話であったかと思いますが、過去をみていくと増減はありますが、ある程度平均的な値ではないかなと思います。今後もずっとこれぐらいの人件費として予想されているのか、まだ逆に増えていくのか、減っていくのかを教えてください。また、人件費に関連して、学校の支援員は今後増えることが予想されますが、人件費に含まれることになりますか。
		(総務次長)	人件費については、定員適正化計画の中でも690～700人でほぼ変わらない数字で5年間の計画を立てています。大量の退職も一段落ということで、ほぼこのぐらいで推移していこうという見方をしています。また学校関係については、人件費ではなく物件費の中に入るものです。
		(財務次長)	支援員は賃金という形で支払っているもので、物件費という中で計上されます。
		(井上会長)	人件費に関連して、定年が伸びることへの影響はどのように考えていますか。
		(副市長)	国家公務員の定年は60歳ですが、今までは公的年金が60歳であったものが、今は3年間年金がもらえない中で、再任用制度を採用してカバーしています。
	2. 第三次行革実施計画の取組状況について	(井上会長)	他にいかがでしょうか。 それでは会議の2ということで、第三次行革実施計画の取組状況について事務局より説明をお願いいたします。
		(課長補佐)	【資料2】第三次行革実施計画の取組状況について説明
		(井上会長)	ありがとうございました。それでは只今のご説明について、ご質問やご意見がございましたらお伺いしたいと思います。

II 会議	2. 第三次行 革実施計画 の取組状況 について	(委員)	253件の補助金以外の補助金はありますか。
		(課長補佐)	これでほとんどです。3年間で予算配当があった補助金なので、補助金の配当がないものも一部はありますが、原則全ての補助金という形です。
		(委員)	それらの補助金については、3ページの歳出の補助金等6,573,428千円の中に入っていますか。
		(財務次長)	補助金がすべてではないですが、歳出のその他経常経費等の補助金等に入っています。
		(委員)	女性の会運営補助金について、段階的に補助金削減と書かれていますが、やっている事業とは関係なく、補助金だけを下げていくということですか。
		(課長補佐)	違います。補助金等合理化委員会で削減の指導がされた補助金です。平成28年度から削減されてきており、削減は終わったと聞いています。そのため予算額が変わっていません。活動内容について指導しているところで、改善という所管課からの検証結果があがってきているものです。
		(委員)	女性の会も四町にわけて助成しています。お金を下げるということではなく、活動について市の方も指導する必要があると思います。必要なものを削減するというのではなく、指導をしながら団体を支援することが大事だと思います。
		(井上会長)	補助金等合理化委員会に私も関わりましたが、決して金額だけをみていこうというのではなく、活動内容や公益性を含めてみていこうというものでした。団体によってはいろいろ経緯があって、設立されて運営されているところがあるので、急激に変えていくこともなかなか難しく、単純に割り切れることもできないこともありました。それら残った部分の中で、市と各団体と調整をして、方向性を一つにしてもらえばいいというふうに感じました。
		(井上会長)	他にいかがでしょうか。
		(委員)	丸岡文化財団運営補助金について、補助や委託事業を整理したということですが、予算額が増えている理由は何ですか。
		(課長補佐)	丸岡文化財団の財源として、補助金による運営補助と建物を管理していただく指定管理者委託料をもっていました。補助事業でみるべきものと、指定管理者委託料としてみるべきものを仕訳した結果、補助金は増えましたが、委託料は減ったという形です。指定管理者委託料の中にも、財団が運営すべき人件費が含まれていたものを調整したということです。
		(井上会長)	すべての補助金は原則として3年に1度、ゼロベースで見直すことになっていますが、3年でやめますという、出す側と受け取る側が理解しているということでしょうか。3年経ったらゼロということで、そうであってもゼロベースで見直すということなので、どれくらい双方が理解しているのかということが難しいと思いますがどうですか。
		(副市長)	団体補助は前年並みの活動をしているのが現状です。担当部署で活動内容をチェックし、趣旨が違うものについては削減して見直すということが重要だと思います。3年に1回は全体的に見直す考えであり、3年で切ってしまうということではありません。補助金の固定観念だけではなく、常日頃の見直しの中で検証していかなければと思っていますので、担当課の意識も併せて考えられたいものです。
		(井上会長)	課長だけでなく部長のチェックもはいるということなので、今言われたことをやっていただくとよいと思います。
(委員)	補助金を申請する時には担当課へ行ってお願いしますが、市として補助金募集をするというやり方をしてはいますか。		

II 会議	2. 第三次行政改革実施計画の取組状況について	(行政経営課長)	特にございません。
		(委員)	担当課へ行くと、実績がないから予算や補助金は認められないと開口一番に言われるので、実績を積むというよりは、活動をしてやりたいというところを認めるというようなやり方は考えていないのでしょうか。
		(行政経営課長)	委員が言われるのは、手挙げ方式のような形になるかと思います。今は具体的には考えていません。アイデアとしてこのような補助金があるのでどうですかと、名乗ってくださいというようなやり方になっているので、ご意見として賜っておきます。
		(井上会長)	他にいかがでしょうか。
		(委員)	3月10日付けの新聞記事(庁舎建設記事)を見て、率直によかったなと一市民として思いました。完成を楽しみにしています。また、合併して10年が経ち、安定した市政運営の中で、職員数についてわからないことがあります。平成30年度予算状況と合わせて、職員数がこのように変わってきましたということを広報でアピールされてはどうか。
		(副市長)	合併して明日で12年目となります。職員数の動きについては、市民に知らせることも必要だと思いますので、検討していきたいと思えます。
		(委員)	悪い意味ではないですが、「職員は暇ではないのか」ということを最近では聞かなくなりました。頑張っているというありがたい声が届きます。今後も限られた人数の中で、職員にも頑張っていたきたいし、そのような状況がわかるものを広報を通じて活動願います。
		(副市長)	ありがとうございます。職員の励みにもつながりますので、一つの情報公開の中でもやっていきたいと思えますので、ご理解いただきたいと思えます。
	3. その他	(井上会長)	他にいかがでしょうか。 それでは次のその他についてですが、行政改革全般や補助金、予算について、何かご意見等ございましたお伺いいたしますが、いかがでしょうか。 私からということで、今回は補助金の合理化に絞られていますが、その他の補助金に関しては、だいたいイメージとしてはどのようなものですか。進んでいるということで理解すればよろしいですか。
		(行政経営課長)	8月にご説明しました第三次行政改革大綱実施計画の49項目ある中の一つが、補助金の合理化ということになっています。そのうち、ある程度着手見込があるもの、ゼロベースで真っさらで考えるものがあり、一年経った時に行政経営課と所管課がヒアリングをし状況を確認した上で、新年度10月ごろを目途に全体の進捗状況を報告させていただこうと思っています。
III 閉会	閉会	(井上会長)	他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。 それでは本日の会議につきましては以上で終了とさせていただきます。円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございます。事務局に進行をお返しいたします。
		(行政経営課長)	本日も長時間にわたりまして、ご協議いただきましてありがとうございます。委員の皆様は、本年度をもちまして任期が終了ということで、1年目から第三次行政改革大綱に携わっていただいたということで、会議も非常に多くあり本当にありがたかったと思います。この場をおかりいたしまして、改めてお詫びと御礼を申し上げたいと思えます。また、新年度に入りましたらそれぞれの各団体から、また第6期はまちづくり協議会を中心としたところから役員を出していただいたということで、今後同様な時期ということもあまして、推薦等をいただきたいと考えていますので、その際には是非ともお引き上りいただきたいと思えます。 以上をもちまして、本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございます。